◇　長谷川　かおり　君

○議長（松田謙吾君）　公明党、12番、長谷川かおり議員、登壇を願います。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。代表質問の内容と重複する点もありますが、しっかりと深掘りしてまいりたいと思いますので、答弁よろしくお願いいたします。

１、地域共生社会の実現に向けて。

（１）、国は、市町村において地域住民の複合化・複雑化した支援ニーズに対応する包括的支援体制を整備するため、対象者の属性を問わない相談支援、多様な参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に行う重層的支援整備事業を実施するように定めています。本町での重層的な支援体制の整備について伺います。

①、本町の現状の取組と検討されている今後の展開について。

②、包括的な支援体制を構築する「重層的支援体制整備事業」の町の取組について。

（２）、聴覚障がい者のオリンピックと呼ばれるデフリンピック大会が、2025年に日本で初めて開催されます。デフスポーツやデフアスリートとつながり、知ることで障がい者への理解を深め、誰もが安心して暮らせる共生社会の推進について伺います。

①、聴覚障がいをはじめとして、障がい者スポーツや芸術文化に取り組む環境や基盤整備について。

②、デフリンピックムーブメントを利用した、共生社会の構築のための啓発活動について。

○議長（松田謙吾君）　大塩町長。

〔町長　大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君）　「地域共生社会の実現に向けて」についてのご質問であります。

１項目めの「本町での重層的な支援体制の整備」についてであります。

１点目の「本町の現状の取組と検討されている今後の展開」についてでありますが、現在の本町における相談支援は、障がい者、高齢者、子どもという対象者の属性による課で対応しており、相談内容が複数の課にまたがる場合には、連携会議等により情報を共有しながら対応しております。

しかしながら、既存の制度の対象となりにくいケースや複数の生活上の課題を抱えているケース等、近年は複合化・複雑化した課題が顕在化してきていることから、今後は課題全体を捉えて関わっていく包括的な支援体制を構築していく必要があると考えております。

２点目の「包括的な支援体制を構築する『重層的支援体制整備事業』の町の取組」についてでありますが、健康福祉課、高齢者介護課、子育て支援課の３課において事業実施に向けた準備を開始しており、昨年度までに道内２自治体の先進地視察を行ったほか、先月には代表者会議を開催して支援体制の現状把握や課題となっていること、今後の進め方等について協議しました。

今後においても代表者会議を定期的に開催し、既存の支援体制を整理するとともに、潜在的なニーズや制度の狭間にあるニーズをどのように把握し支援するか等を協議するほか、月１回

の定例会議や必要に応じて個別の支援会議を開催して包括的な支援体制の強化を推進してまいります。

２項目めの「デフスポーツやデフアスリートとつながり、障がい者への理解を深めて、誰もが安心して暮らせる共生社会の推進」についてであります。

１点目の「障がい者がスポーツや芸術文化に取り組む環境や基盤整備」についてでありますが、障がいの有無に関わらず、定期的な運動習慣や芸術文化に触れることで、心身機能の向上によい影響を与えると言われております。

本町では、教育委員会が昨年度に開催した公民館講座「地域課題セミナー」において、聴覚障がいを有する参加者への配慮として手話通訳者を配置したほか、軽スポーツ健康増進事業や芸術鑑賞事業などにも多くのご参加をいただいております。

今後も誰もが豊かな感性や創造性を育むことができるよう、生涯学習機会の確保に努めてまいります。

２点目の「デフリンピックムーブメントを利用した、共生社会の構築のための啓発活動」についてでありますが、本町においても、関係団体と連携を図りながら、2025年に日本で開催される世界規模の聴覚障がい者のための総合スポーツ競技大会への理解促進と啓発活動を行うとともに、日頃のスポーツ及び文化活動を通して、共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。重層的支援体制整備事業を一括して質問させていただきます。

先進地視察も行いまして、今年度から事業実施に向けて動き出していることは分かりました。現在健康福祉課、高齢者介護課、子育て支援課の３つの課において、当然ながらそれぞれに相談があると思いますが、令和４年度に複合的な課題を抱えている相談件数は何件入っているのか、相談状況と相談についての対応はどのようにされているのか、また役場庁内の各課との連携について伺います。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

複合的な相談ということのご質問でございますけれども、複合的相談というのは１つの世帯に複数の生活課題があって一つの課では解決できない、そのような問題でございます。それで、本町では高齢者介護課、健康福祉課、子育て支援課という３課がございますけれども、高齢者の親と、あと障がいを持つお子さんですと高齢者介護課と健康福祉課が対応したり、また障がいのある親に幼い子供がいらっしゃる世帯ですと健康福祉課と子育て支援課が対応するというような対応を行っております。３課で全部で対応するケースも中にはございます。

件数につきましては正確な数字として押さえていることはないのですが、数十件、少なくとも二、三十を下回らないぐらいの件数は対応しているというようなところでございます。

また、対応状況につきましては、それぞれの課で対応している上に連携しながら、必要な会

議等も行いながら対応しているような状況でございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。その点は分かりました。なかなか相談内容も複雑化しているというところで、またお金が絡む問題とかも出てくると思いますけれども、先ほど私は３課の連携についてお伺いしましたけれども、会議の中で役場関係と住宅や水道課と税の関係、または町民課とかそういう方々が入っての会議もあると思いますけれども、そういうところの会議の中、専門職と事務職というか、そういう方たちとのやり取りの中でやっぱりそれぞれの職員のスキルとかもありますけれども、そういうところを何かその会議の中で重点を置いて気をつけているというか、そういう点がありましたらお聞かせください。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　複合的な相談に対応するときに、ただいまの３課ということで福祉部門の３課で対応する以外にも関係する課がございましたら、税務課であったり、町民課であったりといって関係する職員も交えた中での会議を行います。その中で一人一人個別に対応していくのではなくて、同じ方向性を向いた中で対応をするようにその対応の仕方であったりとか、そのようなことをその会議の中で話して対応しているようなことでございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。それでは、先進地視察に出迎えたということですけれども、その事例を通しまして相談支援と参加支援、地域づくり支援の３つの支援についてまちが取り組むべき考え方について伺います。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　まず、３つの支援についての取り組むべき課題や姿というところのご質問でございますが、今まで道南の七飯町と函館市の２自治体の先進地視察を行ってまいりました。七飯町につきましてはそれぞれの課があるのですけれども、中にコーディネーターとしての役割を果たす職員がおりまして、うまく課をまとめて対応しているような状況がございました。また、函館市においては市内に10か所ある包括支援センターに専門職を配置しまして、そこを福祉拠点としているような状況がございました。いずれの自治体においても既存の事業もございますので、それを有効に活用しながら新たな事業も取り入れて実施しているような内容がございました。それを受けまして、本町でも実施に向けての課題や目指すべき姿でございますけれども、３つの支援について重層的支援を体制制御するためには３つの支援というのを行うことが必要となっております。３つの支援は相談支援、参加支援、地域づくり支援という３つでございますけれども、それらを既に本町でもやっている事業もありますし、また不足している事業もございます。そこら辺の整理をしていくこと、事業の中身を精査していくこと、それが一つ課題となっているところであります。また、コーディネートをする役割の職員の配置、その人材確保についても課題であるとは捉えてございます。

　また、先ほど事業内容の整理ということで申し上げましたけれども、その中に新たな事業を

して取り組まなければいけない事業もございますが、例えば困窮者支援、この支援についても行う必要がございまして、その困窮者支援については実施の主体が福祉事務所を設置している自治体でございます。本町においても道でやっている事業、その事業を連携しながら今取り組んでいるところではあるのですが、町が実施主体となっているものではないものですから、今後その今まで取り組んでいない事業についてもどのように進めていくか、その辺もきちんと整理した上でやっていくことが必要かなというところで課題として取り押さえてございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。しっかり課題を捉えていて、これからどのように進めていくかというところも、そこは理解いたしました。今の準備期間ですけれども、この事業の開始は令和何年から始まるのか、見込みについてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　ただいま準備期間ということで、３年間の準備期間を設けることができます。今年は準備期間の１年目ということで捉えてございますので、３年以内にはその体制を整備するようにいろいろと準備を進めていきたいとは考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　３年をめどに体制準備を進めていくというところは分かりました。たくさん課題はありますけれども、できるところから進めていただけたらと思います。

私は、令和３年３月にこの重層的支援体制整備の事業につきまして一般質問させていただきました。そのとき古俣副町長から、福祉何でも相談窓口的なものをつくっていくためにしっかり検討しなければならないと答弁がありました。その後、体制整備のために取り組んでいただいているところですが、この相談窓口について実際に困り事があってもどこに電話をしていいのか迷って困っているという町民はたくさんいます。あまり詳しいことは言えませんが、ある方からご近所に8050問題、もしかして虐待かと気になる家族がいたけれども、いきいき４・６のどこに電話をかけていいのか分からなかったという話を伺ったことがありました。私は、そのときとても残念な思いをしました。自分では困っているとなかなか言い出せない方や、そういう方に手を差し伸べることができる、そういうチャンスを逃していたのだなと思いました。地域住民との見守りの支え合いの体制整備、おせっかい的なそういう体制整備が必要だと思います。そして、当事者もこんなことに困っています、助けてくださいと言えるように何かあったら相談できる、断らないワンストップの総合相談の窓口をぜひ早い段階で設けていただきたいと私は切望いたします。

この準備期間に電話番号も開設して、体制を整え次第この相談窓口を設けていただきたいのですが、そのところの考えを町長ぜひお話を、お考えがありましたら聞かせてください。

○議長（松田謙吾君）　大塩町長。

○町長（大塩英男君）　相談窓口のご質問でございます。

今回の所信表明の中でも一人一人に寄り添う生活サポートということで、これは重層的支援

整備ということも含めての生活サポートということで掲げさせていただいております。議員からいろいろとお話があって、やはりこういったお一人お一人の生活サポートをしていくというまず基本は、こういった相談体制の充実ではなかろうかなと思っております。さらには重層的ということで、お一人の方に質問をこうやって聞いてみると、実はそういった潜在的な課題があったのだなですとか、そういったことというのが今世の中の問題となっているということは私も認識しています。ですから、その組織的な体制、今は現実的に福祉分野として健康福祉課、高齢者介護課、子育て支援課ということで３課で福祉分野を担っております。今は連携した中で会議を持って進めている状況なものですから、これがその組織機構の改革ということも含めて、どういったことできちんとしたこの重層的な相談体制を取れるかどうかも含めてきちんと、取組を進めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。時期的なもの、これから３年間準備がありますけれども、体制ができ次第この窓口を開設できるのかどうか、そこに向けてのお考えが聞けなかったかなと今思うのですが。

○議長（松田謙吾君）　大塩町長。

○町長（大塩英男君）　申し訳ありません。機構改革というようなことで今私が言ったその３課を例えば２つなり１つというか、そういう統合的にするとなるとちょっと時間はかかるかなとは思うのですけれども、きちんとしたそういった相談体制を整えるというような、その組織機構を除いたというようなことであれば、きちんとこの３年間の中で準備は進めていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　その点は理解いたしました。各課で進めていただけたらと思います。

次の質問に入ります。聴覚障がい者のオリンピックと呼ばれているデフリンピックの件でございます。2025年に日本で初めて開催されることとなったデフリンピックは、オリンピック同様４年に１度世界的規模で行われる聴覚障がい者のためのスポーツ競技であります。1924年の第１回大会から数えて100周年に当たる節目になりますが、昨年ブラジルで行われたデフリンピックには、コロナ禍でありながら73か国、2,412人が参加し、日本選手の中には北海道栄高校の卒業生で女子バレーの選手も含まれております。音が聞こえない人とそうでない人が共同して大会開催を実現することで、例えばスタートの合図や審判の声などを目で見て分かる視覚的に工夫をするなど、コミュニケーションや情報のバリアフリーを推進し、一歩進んだ共生社会の姿を示していくと言われています。障がい者の有無や種類を問わず参加できるスポーツやイベントを増やしていく取組は重要と考えますが、軽スポーツ推進事業でどのようなことに取り組んできたのか、また課題について伺います。

○議長（松田謙吾君）　伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君）　ただいまの議員のご質問でございますが、軽スポーツ事業での取組でお答えをさせていただきますと、先ほど町長から答弁がございましたとおり、軽スポーツ推進事業ということでいけば、昨年度９月に町内で行いました出張公民館講座、パークゴルフの体験講座を開催させていただきまして、その中でも町内の障がい者団体の中からたくさんのご参加をいただいているところでございます。軽スポーツの取組でいきますと、この単に事業を起こして参加ということだけではなくて、教育委員会、生涯学習課ではスポーツ推進委員という方を町民の中から委嘱をさせていただいております。これはスポーツ基本法に基づきまして、スポーツの推進に係る体制整備のために各自治体で委嘱をするということが求められておりまして、本町では11名のスポーツ推進委員の委嘱をさせていただいております。スポーツ推進委員の中では、様々なこの軽スポーツの実技指導だとかというところも町民の皆様とスポーツ振興を図る上で日々その競技の理解だとか、実技研修だとかということをさせていただいております。昨年度におきましては、パラリンピックスポーツの高まりの中でボッチャの競技を実技指導をしたというようなことで障がいの有無にかかわらないことで町民の皆様がスポーツに参加しやすいような指導体制だとか、そういったものに向けて準備をしているというような状況でございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　それでは、今後このスポーツ推進委員の方にも手話などを広めていただいて、聴覚障がいの方とのスポーツのコミュニケーションなども取れるような、そのような働き方もしていただければと思います。

次に、以前私はその軽スポーツのイベントにヘルプマークをつけた方が来場されまして、一緒に会場を回る機会がありました。ご自身の障がいのことを話してくださったので、私も内心ほっとして､来てくれてありがとうという思いで会場を案内させていただいたのですけれども、ヘルプマークをつけている方を見かけますと、どんなことに困り、どのような手助けが必要なのかということを戸惑うことがあります。町内におけるヘルプマークの配付数と理解促進の取組について伺います。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　ヘルプマークのご質問でございます。

ヘルプマークやヘルプカードと呼ばれるものは、義足とか人工関節とかをしている方、また内部障がいや難病の方など外見からは分からないけれども、支援や配慮が必要な方がその周囲の方に配慮が必要ですよということを示すためのマークやカードとなってございます。本町では平成29年度からそのカードを配付する事業を行っておりまして、現在までに271件の配付状況がございます。このカード、マークの普及に関しては、広報に掲載したり、あるいはホームページ等にも掲載しておりまして、啓発活動は行ってございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　平成29年から271件カードを交付しているということで、それだけ

必要としている方が町内にいるのだなということがよく分かりました。東京都大東区では、コミュニケーション支援ツールの一環として障がいのある方が周囲の方から配慮や支援をお願いしたいときにスムーズに伝えることができるヘルプシールを作成し、配付しています。例えば耳が聞こえません、筆談をお願いすることがありますや、席を譲ってくださいなど様々な状況を想定した具体的内容となっています。ヘルプマークの普及啓発とともに補助の役割を担うヘルプシールを本町においても取り入れる必要があるのではないでしょうか。そこの考えをお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　今の本町で配付しているヘルプマーク、ヘルプカードにつきましては、カードが二つ折りになっていて、中にその障がいの状態とか身体状況を記載するようになっていて、ぱっと見ただけではどのような状況なのかというのは確かに分からない状況となっております。議員からご提案がありましたそのヘルプシール、それをカードなりに貼って一目で分かるように、そのようにするということが今後必要かなと考えてございますので、そのシールについては取り入れを今後検討していきたいなと思っております。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　前向きに取り組んでいただけるという答弁をいただきました。一日も早く実現することを願っております。

それでは、障がい関係の質問をしているのですけれども、視力障がいを抱えている方、図書館の配慮はどのように行われているのか、その点をお聞きいたします。

○議長（松田謙吾君）　伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君）　白老町立図書館におきまして、障がい者へのサービスということで何点かご紹介をさせていただきたいと思います。

特に視覚障がいだとか弱視の方への配慮といたしまして、まず点字の図書をご用意させていただいております。そして、もう一つは朗読ＣＤということで文学作品などを朗読して録音したものでございまして、こういった朗読ＣＤですとか、あと大活字本といいまして文字が少し大きめになっている本を各種ご用意をさせていただいております。こういったものの取扱いをさせていただいておりまして、点字図書ですと昨年度でいきますと５冊のご利用があったり、朗読ＣＤでいきますと67点のご利用がございました。大活字本でいきますと243冊と非常に多くご利用いただいているということと、あわせまして視覚障がいにかかわらず体が不自由な方、図書館に来られない方のためにも本の宅配サービスというようなこともやってございます。65歳以上の歩行困難な高齢者の方ですとか、障害者手帳１級から４級をお持ちの方に対してのサービスということで、令和４年度では375冊の宅配をさせていただいたというような状況でございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。取組をお聞きし、また実績をお伺いすること

ができまして、本当に私はこういう取組をしているということは知らなかったので、今回すごく勉強になりましたし、これだけ必要としている方がいるのだな、それにしっかりと応えているのだなとすごくうれしく思いました。これからもこういう方たちにしっかりとサービスが届くような周知をしていきながら取り組んでいただきたいと思います。

それでは、2021年に行った日本財団の調べでは、デフリンピックの認知度は16.3％、パラリンピックは97.9％です。パラリンピックでアスリートが果敢に挑戦する姿は私たちに感動を与え、心を動かしてくれました。デフリンピックが2025年、日本で行われるということで、この機会を捉え、障がいに対する理解をより身近に考えることになると思います。関係団体と連携を図ることはもちろん、学校や保育園、幼稚園などの教育現場や福祉と連携して手話スポーツを実際に体験し、デフアスリートに触れる機会を通してさらに理解が深まることを私は期待いたします。

例えばろう者と健常者のグループがフットサルの試合をする前に上手だね、いいプレーだね、拍手の手話を教えてもらい、試合中に３つの手話でコミュニケーションを取り、交流を図るそうです。次代の子供たちをはじめ、町民に障がい者スポーツが持つ価値や魅力を伝える絶好のチャンスになると思いますが、デフリンピックの知名度を上昇させ、理解促進を図る今後の取組をどのように手がけていくのか、見通しについてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君）　2025年のこのデフリンピックを見据えたということでの周知の在り方ということのご質問であったかと思います。

教育委員会としましては、この町民のスポーツ振興をどのように進めていくのかということを非常にこれから大事に捉えていかなければならないということで考えているところでございます。当然健康な方、そしてそうではなく障がいをお持ちの方も分け隔てなくスポーツに触れる機会をどう進めていくかというのが非常に大事だと思っております。そういう中では、聴覚障がい者へのこのスポーツの関わり方につきましては、多分先ほどご質問があった中でちょっと答弁漏れがあったかと思いますが、課題でいきますとやはりこれは教育委員会の所管のみで進めていける話ではなく、昨年度いろいろ行ったこの地域課題セミナーで手話の方を呼んだり、芸術鑑賞を行っただとかということが町長からのお話がございましたけれども、そういったものが町内のいろんな関係団体、そしてご理解いただける皆様のご協力があってできたものだと考えておりますし、これからは教育委員会のみならず、このデフリンピックのムーブメントを考えながら、分け隔てなくスポーツに触れる機会を果たせるような事業立案だとか、そういった誰もが参加しやすいスポーツの取組というのを町内の体育振興に携わる関係団体含めて、その進め方というのはしっかりと捉えて検討してまいりたいと考えます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　その点理解いたしました。まだ時間的にも余裕がありますけれども、しっかりと取り組んでいただければと思います。

次の質問に移ります。２答目の大項目２、優しいまちづくりについてでございます。

（１）、支え合い、助け合う地域社会の構築について。

①、男性トイレにサニタリーボックスを設置する考えについて伺います。

②、高齢者などの外出支援を充実させる取組について伺います。

（２）、観光振興における環境整備について。

①、ポストコロナとなり、ウポポイを中心に観光客の入込数が伸びている中、誰でも分かりやすい案内表示が求められていますが、町の取組について伺います。

②、白老駅北周辺の環境整備における現状と課題について伺います。

○議長（松田謙吾君）　大塩町長。

〔町長　大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君）　「優しいまちづくり」についてのご質問であります。

１項目めの「支え合い、助け合う地域社会の構築」についてであります。

１点目の「男性トイレにサニタリーボックスを設置する考え」についてでありますが、前立腺がんや膀胱がん等の手術後に、尿漏れ等の症状により尿漏れパッドを着用する方が外出する際、使用済みパッドを捨てる場所として、本町の公共施設の中で多目的トイレが設置されている施設ではサニタリーボックスが設置されております。しかしながら、男性用個室トイレへの設置には至っていない状況であります。

サニタリーボックスの設置につきましては、全施設の全個室に完備するのか、施設管理をどうするか等の課題を整理することが必要ですので、他自治体の実態も参考にしながら検討していく考えでおります。

２点目の「高齢者などの外出支援を充実させる取組」についてでありますが、本町における高齢化の進展は著しく、高齢者に対して優しい、暮らしやすいまちづくりの環境を整備していくことは大変重要であります。

このことから、外出の動機づけを行う各種事業の展開とともに、地域循環バス、福祉有償運送、移動介護サービス等、多様な移動手段の確保、充実に努めてまいりたいと考えております。

２項目めの「観光振興における環境整備」についてであります。

１点目の「誰でも分かりやすい案内表示の取組み」についてでありますが、これまでウポポイ開業に向け町全体の案内表示を整備してまいりました。また、現在ウポポイから白老駅への案内表示が分かりづらいとの意見が寄せられていることから、案内表示を設置する準備をしているところであります。今後も町民や観光客に分かりやすい案内表示となるよう努めてまいります。

２点目の「白老駅北周辺の環境整備における現状と課題」についてでありますが、ウポポイ開業に伴い白老駅を中心に駅前広場や自由通路など、さまざまな整備が行われてきたところであります。今後もより良い環境が維持・更新できるよう関係機関と協議しながら進めてまいります。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。国立がんセンターの統計では、2019年時点で

前立腺がん９万4,748人、膀胱がんの男性患者は１万7,498人、合計11万人が罹患し、術後に頻尿や尿漏れの症状が起きやすく、半年ほどで症状は改善する傾向にありますが、９％の方は改善しにくいそうです。お話を聞かせてくださった方は、外出先では使用済みのパッドを捨てる場所がないため、自宅に持ち帰るまで臭いや尿漏れに神経を使うなど苦労している、外出もおっくうになってしまった、自分以外にも言い出しにくく悩んでいる人はたくさんいるのだと伺いました。

トイレ協会が令和４年２月に行ったアンケート調査によると、回答した男性300人のうちパッドなどを使う男性40人中25人がサニタリーボックスがなくて困ったと答えたそうです。悩みを抱えている町民のみならず、観光客の中にも同じ悩みを抱えている方がいらっしゃるのではないでしょうか。また、トランスジェンダーの観点からも不便を感じているのではないでしょうか。課題を整理しながら前向きに検討してくださるとの答弁ですが、熊本県庁のホームページでは、男性トイレのサニタリーボックス設置についてイラストや画像を通し事例を分かりやすく紹介しております。私はこちらを参考にしていきいき４・６はもちろん、公共施設の中でも人の流れが多いポロトミンタラや幅広い世代の方が利用されているコミュニティセンター、仙台藩白老元陣屋資料館など、個室１か所からでもいいので、初めて訪れても分かるような案内表示を掲げるなど、ぜひ前向きに取り組んでいただきたいのですが、考えをお聞かせください。

○議長（松田謙吾君）　渡邉健康福祉課長。

○健康福祉課長（渡邉博子君）　尿漏れのパッドの使用のご質問でございますけれども、第４期のがんの対策推進基本計画の中においても、そのがん患者の生活の質の向上等をうたっているところでございます。そのようなことも含めて、保健や福祉の拠点となるいきいき４・６、それを公共施設の例えば先行的に、その部分だけでも先に導入してみるというようなことは今後検討していきたいなとは考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君）　今ポロトミンタラの話も出ましたので、私からご答弁させていただきたいと思いますが、やはり本町の観光の入り口といいますか、多くのお客様が利用されている施設でございます。また、24時間トイレも備えているということで多くの方が本当に、町民のみならず観光客の方もたくさん使用されているということで、そういったことも踏まえますと重要なのかなという捉えでいるところでございますので、こちらについてはちょっと前向きに検討させていただければと思います。

○議長（松田謙吾君）　伊藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（伊藤信幸君）　コミュニティセンターですとか、仙台藩白老元陣屋資料館ということのお話もございました。コミュニティセンターにつきましては、町内の様々な方、特に高齢者層も多くご利用されているということでございますし、仙台藩白老元陣屋資料館は昨年北海道遺産に選定をされまして、ますますこれから理解促進を図られるためにも多くの方に来ていただきたいと考えております。そういう中では、この２か所の施設につきましても前向きに検討を進めていきたいなと考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　設置に当たりまして、清掃される方々への取組はご理解していただけるように配慮していただき、進めていただきたいです。

次に、高齢者などの外出支援を充実させる取組についてお伺いいたします。交通弱者の生活の足を確保するための公共交通の利便性向上についての考えは理解いたしました。

それでは、昨年から実施されている自動車運転免許自主返納サポート事業による回数券の配付の販売総数、それと利用実績について伺います。

○議長（松田謙吾君）　冨川政策推進課長。

○政策推進課長（冨川英孝君）　免許返納者の関係と販売総数の部分、私から一括してご答弁させていただきたいと思います。

令和４年度の実績では、免許返納者への配付については66名の方、594冊となってございます。また、重度心身障がい者への以前タクシーの助成というようなことでしたけれども、これも105人の方に配付させていただきまして都合945冊、実際に販売している冊数については394件の3,444冊ということになってございます。利用状況でございますけれども、元気号が1,104枚、デマンドバスカムイ号が5,298枚、ぐるぽんが485枚、あと幹線バスについては1,231枚、またタクシー事業が１万358枚、福祉有償サービスについては２万2,317枚となってございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。回数券が多くの方に利用されているというのは、本当によく分かりました。重度心身障がい者の件ですけれども、今まではタクシー助成だったということで、これは使用期限があってなかなか使用する機会もなかったけれども、バスの回数券を頂くことで道南バスに乗って苫小牧市の病院に行けることができてすごく利便性がよくなったということはお話を伺っておりますので、この改善策というか、その取組はすごくよかったなと、町民の方も喜ばれているのだなということは私としても実感しております。しかしながら、回数券の販売は郵便局での取扱いと聞いていますけれども、栄町の簡易郵便局では取扱いされておりません。なぜできないのか、不便だという話も聞いていますけれども、できる可能性があるかどうか。それと、町税関係などで収納でコンビニ払いが可能となっていますけれども、その関連でコンビニで回数券の販売を取り扱うことはできないのか、利用者によって手軽に購入できる環境を整えるのも利便性の向上につながるのではないでしょうか。今後の見通しについて伺います。

○議長（松田謙吾君）　冨川政策推進課長。

○政策推進課長（冨川英孝君）　ただいまご質問がありました郵便局の業務委託につきましては、あくまでも日本郵政というようなところの契約に基づいて行っているということでございまして、いわゆる栄町簡易郵便局ですとか、そういった特定郵便局については現在のところ対象外となってございます。しかしながら、議員がおっしゃるように栄町の簡易郵便局でも取扱いをしてほしいといった一定の要望、お問合せ等もあるようでございますので、今後個別に協

議を行っていって取扱いができるように調整を図ってまいりたいなと思ってございます。

また、コンビニについてということでございますけれども、現状ではその取扱いに伴う手数料といいますか、そういった費用のほうが非常に高コストというような状況であると伺っておりますので、そういった費用対効果として現状ではなかなか難しいのかなとは思っております。ただし、今後自治体情報システムの標準化というようなことで進んでまいった場合に、コスト自体も下がってきた場合には、やはりそういった取扱いについて再度検討してまいりたいなと思ってございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。大変よく分かりました。簡易郵便局については、今後の取扱いについて確認していただければと思います。

次に、高齢者にとってバスの乗り方について不安があり、車を手放す決心がなかなかつかない、また目的地に向かって時刻表の見方がよく分からないという声も聞いています。昨年から取り組んでいる地域公共交通のバスの乗り方教室を通しまして、身近な移動手段として取り入れてもらう必要があると考えますが、実績や効果について伺います。

○議長（松田謙吾君）　冨川政策推進課長。

○政策推進課長（冨川英孝君）　昨日来、高齢化に伴っての移動支援ということでの公共交通の重要性ということは重々承知しているところでございます。今後においても、公共交通がより身近なものになるような取組は進めてまいりたいと考えてございます。その中で昨年度に実施いたしました乗り方教室勉強会、こちらについては22名の方にご参加いただきまして、先生の講演とともに実際に試乗していただくというようなことを通して、その理解促進に努めたというようなことでございますけれども、参加された皆様からもおおむね好評であったのかなと思ってございます。今年度も同様に７月に再度こういった取組を実施してまいりたいと考えておりますので、引き続き多くの皆様にご参加をいただきまして、効果を上げていきたいなと思ってございます。

それから、やはり時刻表の関係で、そういった部分を少しでも分かりやすくというようなことは常に念頭に置きながら改善に努めてまいりたいと考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。今年度も乗り方教室を行うということで、参加された方はうまく利用することができると思います。自動車運転免許自主返納の事業で回数券を交付された方に出かけたい場所へ乗り方の案内をお伝えしているのでしょうか。現状をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　現状としては、返納者が返納の届けに来たときにその回数券を渡すということで、個別に聞かれれば相談に応じているという状況ではありますけれども、実際には専門的にやっているということではないです。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。以前この免許返納をする方に付き添ったことがあったのですけれども、その方はもうしっかりとデマンドバスも利用されていて、使い方が分かっている方なのですけれども、そこでしっかり住所とかお名前を伺う中で、例えばその地域の住所を確認して、一番近いバス停はここですよとか、お買物に行くなら何ページのここら辺を見て利用してくださいねと、そこまですることによって回数券の利用の促しにもなりますし、出かけるきっかけもつくると思います。せっかく頂いた回数券をしまい込んでしまうということであれば、それはとてももったいない、町にとっても、あとはご本人にとってもマイナスなこととなりますので、その方、ケース・バイ・ケースということもありますけれども、担当課のほうでしっかり取り組んでいただきたいと思いますけれども、考えをお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君）　高尾総務課長。

○総務課長（高尾利弘君）　免許の返納の機会に限らず、役場に来たときにそういった問合せだとか、お困りの方がいましたら、これは全体的な話でもありますけれども、そういった機会がありましたら、分からないことがあったら、担当課とも連携しながら、ご案内をさせていただきたいと思いますので、その辺は職員みんなが共通して取組ができるようなことで考えていきたいと思っています。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。もう昨日から課の横断的なサービスということを何度も町長からもお話しされていますし、本当にまちの体制というか役場、私も何かかにかと、そういう縦割りというのはすごく感じていますけれども、やはりそこで町民はもうそこは分からない、どこに話を聞いていっていいか分からないのは当たり前なので、そういう関連するサービスに関してはしっかりいろんな課をまたいでマニュアルをつくったりとか、そして対応していただきたいと思います。今後高齢者にとって移動手段の確保は重要性が増すと思いますし、免許を手放すきっかけづくりにも進めていかなければならないと思います。回数券や定期券などの利便性向上や、昨日同僚議員の質問にもありましたけれども、高齢者にとってはバスを待つ環境の向上も重要であります。自分の足を使って行きたいところへ行ける環境を維持するためにも、改善に向けて引き続き検討を進めていただけたらと思います。

それでは、次の質問に移ります。観光振興における環境整備です。新型コロナウイルス感染症が５類に移行しましてポストコロナとなり、観光客が町なかを歩く姿を見かけるようになり、大型バスやマイカーだけでなく、公共交通を利用して訪れる観光客も見受けられるようになりました。以前観光客の入り込み数も増えているとの報道もありますけれども、ポロトミンタラやウポポイなどの過去３年間の観光客入り込み数と増えた要因について伺います。

○議長（松田謙吾君）　工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君）　それでは、観光入り込み客数から述べさせていただきたいと思います。

報道にもあるとおり、令和４年度の観光入り込み客数は220万1,935人ということで、前年比51万7,862人増加となりました。この結果は、平成20年度以来14年ぶりの200万人を超えたというような内容でございます。要因としましては、様々な施策の部分もあったかとは思いますが、これは人の感情といいますか、新型コロナウイルス感染症でやはり旅行ができなかった状況から落ち着いた状況の中で少し出てみたいという気持ちが圧倒的にあったのではないのかなと思っています。具体的には、ウエルカムしらおいキャンペーンも含めて宿泊客等も伸びておりますが、白老地区、それから虎杖浜、竹浦地区、両地区とも伸び総体的に伸びたというような中身でございます。

ウポポイの入場者数ですが、令和２年度におきましては22万2,794人、令和３年度につきましては19万618人、令和４年度は36万9,038人、それから令和５年５月までになりますけれども、５万666人ということで合計83万3,116人、ポロトミンタラにつきましては令和２年度14万264人、令和３年度８万7,742人、令和４年度15万2,561人、令和５年５月までで２万6,214人で、この５月までで合計40万6,781人のお客様に来ていただいています。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。工藤課長がおっしゃいましたけれども、もう恐れるべき新型コロナウイルス感染症がだんだん予防接種などをすることによって、皆さん去年あたりから活発に動き出してきているなということは本当によく分かります。ポロトミンタラ付近をよく散歩されている町民の方から、観光客が確実に増えておりＪＲへ向かう道をよく聞かれるようになったそうです。その都度対応していたのですが、５月の連休中には道が分からなくなり、発車時刻ぎりぎりの方に声をかけられて、白老駅北口の自由通路まで走りながら案内されたこともあったそうです。また、白老駅へ道案内する際に白老駅北口の自由通路の外壁に表示がないために観光客から何の建物か分からなかったと言われたそうです。誰が見ても分かるように連絡通路の壁に白老駅北口と表示することを検討していただきたいのですが、そこの考えについて伺います。

○議長（松田謙吾君）　工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君）　お話しいただいたことは、町のほうにも少しご意見としていただいているところでございます。道道側から駅のほうに向かう道のところがやはりちょっと入り組んでいるといいますか、中へ入っていくようになっていますので、町としましても町有地の一部を使いながら分かりやすく表示していきたいなということで今準備を進めてございます。

それから、駅の表示も、これはこちらが白老駅ですよというのが町民の皆さんもそうですけれども、観光客の皆様にも分かりやすく表示できるような工夫をさせていただきたいなと今取り組んでおりますので、ご了承いただければと思います。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。町民の声を聞いてしっかり対応してくださる

ということで、声を届ける町民の方々も喜ばれていると思いますので、しっかり対応を進めてください。

次に、ＴＲＡＩＮ　ＳＵＩＴＥ　四季島停車時のおもてなしイベントについてお伺いいたします。ウポポイ開設とともにあの特急が白老駅に停車することによりまして、豪華列車四季島も停車しておりますが、観光客の降車状況と町民の歓迎体制について伺います。

○議長（松田謙吾君）　工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君）　ＴＲＡＩＮ　ＳＵＩＴＥ　四季島の関係でございます。これは主催者がＪＲ東日本ということでＪＲ北海道ではないということになってございまして、今までＴＲＡＩＮ　ＳＵＩＴＥという中で豪華列車で観光を主とした電車となってございます。令和４年度から白老町のほうにも立ち寄っていただくことになりまして、昨年度は全23回立ち寄っていただいてございます。また、今年度につきましても４月から23回予定されるということで聞いてございます。

昨年度も含めて歓迎の部分でございますけれども、町職員、観光協会、それから商工会、町民の皆様にも集いまして駅のホームまで、雨のときは自由通路内でとかということになりますけれども、こちらのほうで手旗であったり、横断幕であったり、時には仙台藩白老元陣屋資料館からお借りしました甲冑なんかも着てお出迎えをして好評をいただいているというような状況でございます。そういったことでやらせていただいておりますので、ＪＲ東日本様においてもそういうようなお声もいただいていることから、今年度も引き続き同様に進めていきたいなと考えてございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　12番、長谷川です。このようなおもてなしをするということは、観光客の方も喜ばれますでしょうし、お出迎えする町民の方たちの意識向上にもなると思いますので、今後ともＪＲ東日本様とも連携を取りながら対応していただければと思います。

駅ホームに降り立ちますと、経済センターの壁にウポポイの開設に向けての大きな掲示物があります。こちら2020年国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園誕生と掲げられたままとなっております。開設されてから３年がたちますが、時にそぐわない内容となっているのではないか、またこのようにＪＲをよく利用される方もご指摘を受けていますけれども、こちらの更新予定はないものか、今後の見通しについて伺います。

○議長（松田謙吾君）　工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君）　こちらの看板は平成28年にアイヌ文化伝承普及啓発事業としまして、経済センターを活用した象徴空間の認知度向上プロジェクトとしまして看板３枚を製作して掲げたというような中身でございます。今議員おっしゃられたとおり、そぐわないといいますか、少しちょっと内容が古いような看板もございます。そういった中で昨年、仙台藩白老元陣屋が北海道遺産に10月ですか、選定されたということもありまして、そういった看板もということで今実は協議を進めている最中でございます。整い次第、掲げられたらいいなと思ってございます。

○議長（松田謙吾君）　12番、長谷川かおり議員。

〔12番　長谷川かおり君登壇〕

○12番（長谷川かおり君）　ただいま仙台藩白老元陣屋資料館が北海道遺産に認定されたことで、その周知を含めた大がかりな看板を設置するというお話を伺いました。ぜひ仙台藩白老元陣屋資料館に立ち寄っていただき、先代のアイヌの方々と仙台藩白老元陣屋資料館に関わった方々との深いつながりを知ってもらい、そして理解を深めてからウポポイに立ち寄っていただく、そんな文化芸術の観光めぐりもあってもよろしいのかなという思いでおります。

ポストコロナとなりまして観光客が増えている中、ちゅうちょすることなく気軽に声を掛け合う当たり前の状態が戻ってまいりました。コロナがなければ、このような問題ももっと早く町民のほうから声が上がってきたのかなと思います。

その中で、今後インバウンドの需要が見込まれる中、新たな課題が浮かび上がってくるとは思いますけれども、先ほど町長もおっしゃっていました観光公害の件、そういうごみの問題とか騒音、それと渋滞、いろんなことが浮かび上がってくるとは思いますけれども、その中でよりよい環境整備をしっかりと取り組んでいただきたいとは思いますけれども、町長の思い、これから観光を振興する中でのお客さんが来てくれるだけではなくて、そういういろんな問題も町民に対しての問題も出てくると思いますけれども、そこの調整の仕方のように町民の方の理解促進ももちろん必要でありますし、役場側の町職員の対応とか、または各種団体との連携とかもありますけれども、そこのところの思いをもう一度お聞かせください。

これで、町長のお話を聞いて私の一般質問を終わります。

○議長（松田謙吾君）　大塩町長。

○町長（大塩英男君）　議員から大きい２項目めとして、優しいまちづくりについてというご質問でございました。

この言葉は非常にいい言葉だなと思って、優しいまちづくりということで非常にいい言葉だなと思いました。全体を通していくと、ちょっとしたことと言ったら語弊があるのかもしれないですけれども、例えばこの案内表示が見づらいよね、だから改革してはどうだろうですとか、あと先ほどのがんの方々への対応ですとか、そういったちょっとしたことの気づきで町としても対応させていただきたいと思います。ただ、今回はいろいろと要望事項のご提言をいただいたのですけれども、やはりそこは全てがという、すぐにというような部分ではないということはちょっとご理解いただければなと思っているところでございます。

それで、観光の部分についてご質問がございました。先ほどもお話しをさせていただいたのですけれども、これからまだまだ予断は許さないのですけれども、コロナが落ち着いていよいよ白老町にもインバウンドを含めてたくさんのお客さんが来てくれるだろうということで、町としても大いに期待しているところでございます。ですから、これはコロナ前にも十分な準備、例えば英語に対する表記ですとか、各飲食店の英語メニューですとか、そういった準備はやっておりましたので、いよいよ本番と言ったらおかしいのですけれども、そういったことでおもてなしをしていきたいなとして思っておりますので、経済循環を含めて大いに期待しているところでございます。

ただ、一方では先ほど申したとおり、やはりその町民の皆さんの生活に影響がないようということで目配りはしていかなければならないと思っています。交通事故の問題であったり、あとちょっと悪いことを言ってしまうと犯罪の危険性ですとか、そういったこともこれは警察と連携した中できちんと見守りをしていきたいなとして考えております。

ただ、たくさんの方に来ていただきたいということなので、やはり情報発信とＰＲと、そして首都圏等に行きますとウポポイということで特別に首都圏向けのコマーシャルというのを流していただいているということですので、ウポポイというのはかなり浸透してきているのですけれども、ウポポイがあるまち、北海道の白老町というのがまだイコール化されていないというようなこともありますので、ここは町全体として、また私もトップセールスマンとしてこの辺は全国にＰＲをしていきたいと思っておりますので、白老町にたくさんの人が来ていただけるように私も全力を尽くしてまいりたいと思います。

○議長（松田謙吾君）　以上をもって公明党、12番、長谷川かおり議員の一般質問を終了いたします。